仕事やくらし コロナ前と今とで変わったこと

オミクロン株の広がりが懸念されています。2376号にも掲載しましたが、昨年11月14日の「けんせつ」通信員総会の際に、出席した通信員に「仕事やくらし　コロナ前と今とで変わったこと」というテーマで記事を書いていただきました。

仕事がない、お金ないのはとても淋しいものです

細谷さん

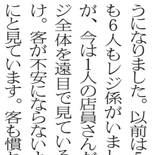
【足立・看板・細谷孝一通信員】コロナ禍で仕事は激減してしまいました。高年齢(75歳)のためかも知れないけれど、何日か仕事がなくて遊ぶ日が多くなった日々がありました。

仕事がないのとお金がないのはとても淋しいものです。長年この道で仕事をいただいていたので食べるだけの蓄えは何とかなるけれど、時代の流れでしょうか。

コロナ禍のためかスーパーのレジ係の方がいらない時代に入ったように思われます。品物のバーコードを機械にかざすだけで精算してくれるようになりました。以前は5人も6人もレジ係がいましたが、今は1人の店員さんがレジ全体を遠目で見ているだけ。客が不安にならないようにと見ています。客も慣れつつあります。

今では思いもつかないようなことが出てきます。人手不足とコロナ禍で何が起こるか、何が影響しているか分かりません。一方仕事がないからか、自殺者が増えているのも事実です。足立支部でも7人の方が命をたたれたと聞きました。自殺の原因はわかりませんが、自ら命をたつということはよほどの度胸がないとできません。私には兄弟が大阪にいましたが、今年2月にコロナ禍で他界しました。残念です。私にとって良い兄でした。コロナ禍が憎い。

マスク嫌でなくなり 花粉症も影潜め


小川さん

【北・設計・小川治郎通信員】コロナ禍が始まって2年になる。こんなに長くマスクを着け、店頭に置かれた消毒液に手をかざしたことはかつてなかった。お陰で今ではマスクも嫌ではなくなり、花粉症の持病も影を潜めているありさまだ。

コロナ前には考えられなかったが、除菌に対する意識が強まり、外出を控え、結果的にパソコンや携帯で対話する使用頻度が高くなった。この結果と言えるかは不明だが、リモートでの会議も多くなったことで、電子機器の性能もコロナ禍で、私のような建設従事者は、飲食や旅客業と違って極端な悪影響はなかったと思います。しかし、以前に比べると定期的な現場作業は減っています。それは、得意先の建設業兼不動産管理会社に長年いた現場監督が定年退職し、その後不動産メンテナンス重視になったこともあります。それでも、マンションや一軒家へのメンテナンスは少なからずありました。家電品は、量販店の台頭で、すっかり減り、テレビやエアコン設置等は量販店に蹴られた原介な作業ばかりです。

本多さん

【文京・電工・本多健一通信員】私は文京区小石川地区で、職住一体のマンション生活をし、電工とごく少量の家電販売もしています。大手の下請による野丁場経験はありません。

宅配弁当利用してみたが 飽きてまた外食に

そのようななか、税理士さんの助言もあって、法人向け持続化給付金を二度だけ受給できたのは、大変ありがたかったです。やはり多少なりコロナの影響は、あったのだろうなぁと思いました。

昨年、町内では再開発事業により新規高層マンションが林立し、様相がすっかり変わってしまいました。しばらくの間は、それらのメンテナンスはなさそうです。

私生活では、マスクは必須、手洗い、うがい、消毒を徹底している毎日です。昼食は外食を定期宅配弁当にしましたが、飽きて今ではランチタイムの早い時間帯を狙って食事を取っています。夜に至っては、外食は控えています。

今後は、アフターコロナの景気回復に期待していますが、無理をせず身の丈に合った仕事をしていきたいです。

お菓子持寄り話できた 集会所も閉鎖に

樋口さん

【練馬・建設事務・樋口チヤエ通信員】コロナ禍で世の中の流れが乱れて2年近くなります。

何も仕事らしいことはしていないのですが、「今日何人の感染者が出た」という放送に一喜一憂していましたが、そのうち1000人を超し千の位がふえるたびに恐怖を感じるようになりました。ワクチン接種も日に日にふえて希望する人のほとんどが2回目が終わったと聞きます。

私たちは人と会ってとりとめのない話をしたり、持ち寄ったお菓子を食べたりする集合現場も閉鎖となり、「うつ」になる人も多いと聞きます。

コロナ禍で職を失い道を絶ずす人、生活に苦しむ人がいかに多いかという、ジャーナリスト東海林さんの話（昨年11月14日の通信員総会で）を聞いて心を打たれました。相談村でのシングルマザーの話の時に、東海林さんが感極まって言葉詰まって声が出なくなったのを見て涙が止まりませんでした。

初心に帰り 仕事見直す

【渋谷・造形・大鐘弘資通信員】私の仕事は、イベント関係の装飾物の企画制作施工が主力であるため、コロナ禍では、ほとんどの企画がキャンセルとなりました。

企画ものは、短くとも1年程度前から発生し、長い企画は3年以上かかります。昨年手掛けていた企画も、2023年の物です。コロナ禍は、仕事面では長く耐える厳しい状況でしたが、細かい図面を描く仕事がなくなったお陰で、マウスとキーボードの使いすぎによる腱鞘炎はすっかり治り、手作業ができるようになりました。

私が会社員であれば、来年は定年の歳です。思えばこの10年ぐらいは、私の仕事はパ

大鐘さん

ワクチン未接種で 現場入場を断わられた

【品川・内装・櫻井守通信員】2020年1月から騒ぎが始まったコロナウイルス感染拡大で、仕事量が激減して自宅で過ごす日が多くなり、精神的にも肉体的にもモヤモヤする日が続きました。

政府は社会に対しリモートワークを奨励し、デスクワークの方の多くはリモートワークでの仕事に移行されたと聞いています。

私たち建設職人はリモートワークができない職種です。ワクチン接種がなかなかできない時、決まっていた仕事も、施主さんからワクチン接種をされていない人は現場に入らないで、と断られたこともあります。

今は感染者数も少なくなり仕事量も改善され少し先の明りが見えて来たように思われます。

櫻井さん

主人と息子ぶつかり、ハラハラ

【八王子・大工・山本紋子通信員】新型コロナ感染拡大前は仕事も順調で毎日仕事に行っていました。しかし現装大工なので、（新しく）お店を出す人が少なくなり、家に居る事が多くなりました。

やはり仕事が減ると収入も少なくなり、主人と息子もぶつかることがふえ、私もハラハラするようです。

だんだん仕事もふえてきたので、ほっと一安心です。しかし今度は材料がなく、値上りもして大変です。

山本さん

外出機会が激減 認知症初期かと心配

【目黒・塗装・黒澤利時通信員】私は厚生年金受給者です。コロナ禍だけでなく腰痛もあり、外出機会が激減しました。

日刊新聞3紙とNHKラジオ第一を情報源としています。NHKラジオはテレビより良心的です。特にラジオ深夜便」は充実しています。ただこれだけでは情報がかたよります。週に1回は図書館で私とは意見の違う産経・読売・日経の3つの新聞も読んでいます。朝日新聞「天声人語」執筆者の話では、その月の岩波新書を全て読む努力をしているが達成できないとのこと。

外出できずとも情報を多く集めたかったらどうするか。認知症初期の危惧を持ちながら、残された人生をより充実させる事に集中したいです。

あの恐ろしい空襲と空腹、その後知った日本は加害者でもあったこと。今日まで生き残った人間として任務があります。戦争は絶対にいけないということ。生活を守るための年金引き下げ違憲訴訟原告として最後まで問うことです。東京土建の仲間を信頼し問うことこそが生きがいであり、最大の認知症予防だと思っています。

黒澤さん

カメラ持って出かけられず

【町田・主婦・柏葉幸子通信員】コロナ禍が変わったこと、仕事がある時は外出します。帰りに買物をして家へ、その後は外出しません。

また以前はカメラを持ちいろいろな所に出かけていました。コロナ禍になってからは、どこへも行っていません。とにかく家にいることしかできません。

一人で生活しているので、誰とも話をしない日が続いています。幸いにもコロナに感染せず、元気に過ごしているのが一番です。

自由に外出できる日が早く来ることを待ち望んでいます。

柏葉さん

情報もれにより 申請遅れ、発注ミス

浜崎さん

【中野・主婦・浜崎菜央子通信員】コロナ前＝人と会った時には時間が経つのも忘れる位、話がはずんだ日々。しかし、コロナ禍、自粛がはじまり、人とは会えないし、マスクごしの会話は聞き取りづらい。表情も分かりづらく、話をしていても、ちゃんと相手に伝わっているか不安の日々が始まりました。

数カ月後、不安は現実のものとなり情報漏れにより申請遅れ、発注ミス等の問題が次々と。さらに機械音痴な私がようやく慣れてきたPCやスマホも回線が悪い状況に…。子どもたちもオンライン授業だったのでパンクしたのです

小野瀬さん

【江東・大工・小野瀬有香通信員】昨年はリフォーム仕事が予想以上に多かった。自宅にいることで色々なところが目に付いた事が、そこに繋がったのだと。主婦目線でも理解ができた。

昨年もコロナ禍という厳しかはね…。今は昔の事を思い出して、ノートを用意し、書面にしたりもしています。

今もなお、昔を振り返り、情報を正確に伝えられる方法を考えています。マスクを外し、顔を合わせ話ができる日が来てほしいです。

マスク前知らないと 対面が不安になる女性も

人通りの途絶えた地下街

さはありつつ、なんとかなるだろうと思っていたが、一昨年とは様子が違っていた。まずは現場のストップから始まり、仲間の会社の倒産と大小さまざまな影響があった。特に仲間の倒産には衝撃をうけた。組合でもメディアでも建設業の倒産率は飲食系につぐものだと言われてはいたが、すぐ隣の出来事となると、耳にしてきていただけの話とは気持ちの上で違ってくる。

幸いにもその仲間は、仕事内容は違う建設業でやっていけることが決まったそうだが、複雑な思いが今も胸に残っている。

話は全く変わるが、女性どうしの話では、マスクによるシミ問題、で盛り上がる。先の話と次元が違いすぎて笑われるかもしれないが、これはこれで重要課題である。

今はマスクのお洒落も日常化しているが、これが必要にならなくなるのは明らかで、マスクをしていなかった以前の自分を知らなかった人との対面が不安になる女性も多いのである。どうにもならない事が多い今ではあるが、一日も早く以前同様の日常が戻ってくる事を望むばかりだ。

仕事に3密ないが 手洗い、うがい欠かさず

阿久津さん

【八王子・塗装・阿久津徳広通信員】コロナ禍によって私も生活が不便になりました。

まず、どこに外出するのにもマスクが必要です。うっかりするとすぐに忘れ、マスクをとりに家に帰ったとともたびたびです。

仕事は2人ないし3人での作業なので3密ではありませんが、いつコロナに感染するか心配でした。仕事が終わって家に帰ってもコロナの事が気になるので、手洗いうがいを第一にします。

私も高齢者なのでコロナに感染したら大変です。ワクチン接種も5月と6月に受けました。今のところ大丈夫ですが、これからも気をつけて生活していきます。

遠藤さん

給付金穴埋めで増税が心配

【江戸川・内装床・遠藤喜世志通信員】コロナの前後で変わったもの、「顔パンツ」と言って、バカにしていたマスクを自分がつけていることだ。一部の若者が、風邪もひいていないのにマスクをしているのを見て理解できなかったのだ。

もう二つ、2年近くも居酒屋に行ってないことだ。週に2日は、近所の居酒屋で翌日を棒に振るくらい飲んでいたのだが、コロナの中では家飲みばかりだ。しかし、酒代は激減するのかと思いきや、シングルモルトのウイスキーばかり買うので、今までと変わらない。

仕事では、昨年の5月までは少し減ったが、いつものペースに戻っている。まるで政府がコロナ、コロナと騒いで、中小零細企業つぶしでもしているのではないかと疑ってしまう。

自分は、あまりもらえなかなかコロナ禍で、私のような建設従事者は、飲食や旅客業と違って極端な悪影響はなかったと思います。しかし、以前に比べると定期的な現場作業は減っています。それは、得意先の建設業兼不動産管理会社に長年いた現場監督が定年退職し、その後不動産メンテナンス重視になったこともあります。それでも、マンションや一軒家へのメンテナンスは少なからずありました。家電品は、量販店の台頭で、すっかり減り、テレビやエアコン設置等は量販店に蹴られた原介な作業ばかりです。

そのようななか、税理士さんの助言もあって、法人向け持続化給付金を二度だけ受給できたのは、大変ありがたかったです。やはり多少なりコロナの影響は、あったのだろうなぁと思いました。

昨年、町内では再開発事業により新規高層マンションが林立し、様相がすっかり変わってしまいました。しばらくの間は、それらのメンテナンスは

人の思惑、政治絡みで動く 恐しさを実感した

杉本さん

【台東・塗装・杉本良信通信員】コロナ感染症が中国で蔓延され始めた時、日本も含めてアジア圏に広まるのではないかと、ばくぜんと考えていた。しかし、ここまで世界中に広まるパンデミックになるとは、思いもしなかった。

WHOの事務総長はエチオピア出身。彼はコロナ感染症が広まり始めた時に中国に視察に行っているが、彼の母国エチオピアは中国から多大の援助を受けている。そのため中国が不利になる発信は控えているのではないかと当時言われていた。

彼は当時、コロナ感染症は世界的なパンデミックになるとは言えないと言っていたが、その後は皆さんご承知の通り世界中に広まってしまった。人々がいかに世界中を移動しているかということの証明にもなってしまった。

毎回のニュースを見て、私自身の生活は、それ程変わっていないが、日本中、世界中がコロナ禍のなか、大変な事になっている。幸せなことに私の回りや友人に感染者は出ていない。そのためなのだろうか、身近に危機感は感じないでいられる。しかし私自身、外食も外出も控えているのが日常だ。

それにしても世界を巻き込む問題が発症した時に、人の思惑、政治、外交がらみで動いて行く怖さを感じる。毎日が、平和である事をただただ、祈るばかりだ。

考える時間を多く取れた

田中さん

【杉並・設計・田中淳一通信員】2年前から始まったコロナウイルスの世界的な蔓延で生活を制限され、まだいつ収束するかも見えない。

私は設計の仕事をしているが、主な受注先で新規の設計はほとんど止まった。この2年間は施設管理の業務をして10月までやってきた。主な受注先とは17年間のお付き合いで、その社長の引退で、私も合わせて業務から退くことにした。東京での設計業務からは離れて田舎へ移住して、新しい生活に変えるべく現在は用意中である。

コロナの影響ではないかもしれないが、コロナ禍で過ごした2年間は、今まで取れずにいた自分で考える時間を多く取ることができてよかったと思っている。

今までの慌しい生活から、余裕の持てる生活へ変えてゆく機会となった。これからは皆の笑顔が見られるような楽しい計画を立て実現してゆこうと思っている。

組合の会議が延期、中止に

肥野さん

【練馬・造園・肥野信彦通信員】私は植木屋で仕事をしています。コロナ禍で仕事が減ったことはありません。従業員3人で現場をこなしていますが、作業中は間隔も取っていたので特に変化は感じませんでした。

お客様との朝と夕方のごあいさつはマスクをするようになりました。仕事中は私語もなくマスクははずしています

紙面は3割減に 密避けると集合写真ダメ

岩武さん

【多摩・稲城・設計・岩武憲生通信員】何とか休むこともなく、毎月発行ができました。1年11カ月現在、机上とPC内では来月号の製作中です。支部機関紙は、毎月の執行委員会の議案書をもとに紙面を製作しています。支部行事の活動と案内などを会議の「活動者会議」「住宅デー」の会場は4ページで紙面を準備しています。

ところが、コロナ禍の感染拡大などによる緊急事態宣言発令のなか、延期あるいは中止などになると4ページから2ページに紙面構成を戻して、再レイアウトをすることになります。

年間に発行する機関紙の紙面合計数でも通年の3割減に落ち込みました。動員に参加しても人数制限があり、参加者も少なく集合写真も「密」を考えると撮影は諦めるほかありません。写真のカット数も減っています。

詩将棋の解答

■2二飛△同玉■3二飛△2一玉■1二飛成△同玉■2四桂△2二玉■3二歩成まで9手詰。